

Creator

ジャンピン・ヘ Jianping He

アートディレクター、グラフィックデザイナー

1973年中国生まれ。中国美術学院でグラフィックデザインを学んだ後、ベルリン芸術大学の修士課程で美術を専攻、2011年にベルリン自由大学で文化史の博士号取得。ベルリン芸術大学で教鞭を執った後、現在は香港理工大学、杭州の中国美術学院で客員教授を務める。2002年ベルリンにデザインスタジオ兼出版社「thesign」設立、2008年からは杭州にも支社を設置。近年の日本では、第10回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2012で金賞受賞、同トリエンナーレ第11回で審査員、2012年ギンザ・グラフィック・ギャラリーでの個展開催等がある。

Printing Director

Photographer

山口理一 Riichi Yamaguchi メルク・インボーデン Melchior Imboden

先達の思想や創造は私に様々な化学反応を引き起こした。それはまさに「Fusion」と呼ぶにふさわしい体験だった。自身の内的世界を構成する要素の多層的な展開を試みた。

モチーフはデザインの先人たち

“Fusion”というテーマには多様な側面があると思います。たとえば企画者側はグラフィックデザインと印刷技術が融合するプロセスと捉えているようですが、ドイツでは“Fusion”は「会社の合併」などという場合に用いられ、文化的な事柄とは結びつきにくい言葉とされています。このように同じ言葉でも解釈は様々あるのですが、トライアルでは、私自身が“Fusion”という言葉からインスピレーションを受けたイメージを作品にしました。

では、あらためて“Fusion”とは？

私のイメージする“Fusion”とは、思想と創造によって引き起こされる「化学反応」のようなものです。たとえばグラフィックデザインを探索する過程で私は多くの先人たちに会うことで大きな影響を受けてきました。彼らの思想や創造が化学反応を引き起こしたわけです。今回は特に重要だと感じる人々をモチーフに、どのような影響を受けたかをテーマに展開しました。

ご自身の内なる表現だと？

そういうことになりますね。もちろんそれらは必ずしも彼ら自身のコンセプトや動機と一致するわけではありませんし、あくまで私の視点からの解釈だとお断りしておきたいと思います。

5つのテーマと10名の先人たち

ポスターはそれぞれ共通する側面を持つ2名の人物を軸に構成しています。ちなみに、私の親友でスイスのグラフィックデザイナーで写真家でもあるメルク・インボーデンの作品“デザイナー・ポートレート”を使用しました。

「f」はユーモアがキーワード？

東洋とイギリスのユーモアをテーマに選んだ二人です。イギリスのアラン・フレッチャーはペンタグラムの設立後に独創的な作品制作を探索した人で、彼の作品からは自由や成功の概念や、異なる視点から物事を捉えて表現することを学びました。福田繁雄からは叡智やユーモアを交えたデザインの可能性を教えられました。彼らの多様な解釈が可能な作品に、私はデザインの可能性を感じることができました。

「u」は書体がテーマ？

フォントのデザインやレイアウトについて特別な知識を授けてくれた二人です。スイスのジークフリート・オーデル

マットは冷静かつ簡潔な文章のレイアウトで知られる先人です。浅葉克己は手書き文字をデザインに取り入れた装飾文字の名匠です。彼らのユニークなアプローチは、文字をデザインに取り入れる可能性を教えてくださいました。

「s」はアートの視点？

東洋と欧米双方のアプローチから純粋芸術と応用芸術の融合を示した二人です。ポーランドのヴァルデマル・シヴェジは手描きで、横尾忠則は絵画やコラージュによるグラフィックで知られています。彼らの手法はデザインと絵画の関係を扱う際に重要なインスピレーションを与えてくれます。

「io」は数学的なアプローチ？

原理に基づいたデザインが共通項の二人のスイスのデザイナーです。グラフィックデザイン界で「隠遁者」と称されるゲオルグ・シュテヘリンは、文字に内包されたイメージを解釈するミニマリストで、作品は看過できない素晴らしいに溢れています。ブルーノ・モングッチは正確な数的計算からもデザイ



ンを構築することができると教えてくれました。

「n」は教育的視点ですね。

先進的な教育という側面から選びました。スイスのアーミン・ホフマンはデザインにおけるシンプルさと黒へのこだわりを私に意識づけてくれました。ドイツのカート・ワイデマンは第二次大戦後のドイツのデザイン界で最も重要な人物の1人で、彼のユーモアと幸福感あふれるスタイルは私にデザインする勇気を与えてくれました。

積層する構成要素

この作品は、10名のデザイナーに加えて自然の風景を背景として組み入れ、それらを粗線状のスクリーンにして積層させ、その複雑な構成要素から生じる空間性をレリーフのように表現しようと考えました。紙地と印刷面の質感の変化とメリハリで、多層的な構造を立体的に表現しようとしています。

なぜ風景が構成要素に？

まるで元の時代の画家、黄公望が描いた「富春山居図」のような景色ですが、実は私の故郷の富陽（フーヤン）の風景写真です。デザインについて先人から学んでいくなかでも、つねに自身のルーツとなる文化があることをこの風景によって表現しました。

金色のパターンは？

これはデザイナーたちの符号（コード）です。それぞれの個性を核としてデザインを生み出していますので、そこからインスピレーションを得てコード化しました。つまり、これは彼らのコードであると同時に、私自身のパーソナル・コードでもあるのです。

なぜ金色の箔にしたのですか？

金箔が一番強さを表現できると考えたためです。個々のコードは、筆や鉛筆が作り出すランダムな形と、木製のプリント型によって描きました。私は常々、手描きとデジタル要素を組み合わせる手法を用いて制作を試みており、手で描く際には東洋からヨーロッパまで幅広い地域の多種多様な道具を用いることを心掛けています。今回の作品でも、人物とコードをどう組み合わせればワクワクするような対話が始まるかと考えながら構成しました。

季節という“Fusion”で連作に

このように多層的で複雑な構成を持つ作品を5枚のシリーズとして完成させるために、私は色彩で季節を表現することにしました。季節は様々な色が交わるという意味では常に変化の過程にあることから、まさに“Fusion”そのものの現象だと言えます。春から夏、秋、冬、さらに春へ変わるプロセスを緩やかに

変化する色彩で表しました。

色選択のポイントは？

私自身の感覚で、四季という枠組みに限定されることなく、春から冬への移り変わりを表す色を選び、その重なり合いで季節を表現しました。1枚目は春のイメージで、赤や緑などコントラストが強い色彩で表現し、一年の終わりに向かうに従い彩度やコントラストが弱まっていくようになっていきます。

風景の色だけ共通にしたのは？

青は数学的には他の色と最も離れている色として定義されています。そのため、他の色と交わることで無限の色彩的コンビネーションを創出することができますという特徴があります。それで私は風景をモチーフにする際はグリーンやブルーなど寒色をよく使います。

最後に来場者にメッセージを。

この作品ではこれまで影響を受けたデザイナーと故郷の風景、さらに自分で作成したコードを重ね合わせて私自身の現在と経験してきた様々な事柄を多層的に表現しました。この作品から印刷物の物質的な面白さを感じていただければと思います。



Point of Trial

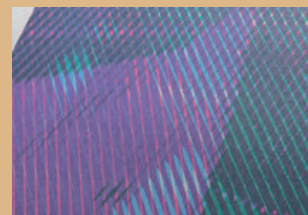
トライアルのポイント

用紙別の再現性を検証

同じ印刷設計でも、紙が違えば再現性は大きく異なる。印刷適性の低い羊毛紙や山根紙はインキが沈む。本作品では羊毛紙に2度刷りをしてインキ濃度を高め、ヴァンヌーポの発色に近づけた。



ヴァンヌーポ



羊毛紙



山根紙（民芸紙）

インキ色による見え方の差を検証

二人の人物の顔が、ジャンピン氏の指定色をベースに均等の強さに見えるように微妙に色味を調整した。



ジャンピン氏指定色



彩度を上げたもの

色が沈み同化していたことから、彩度を上げることで、個々の色味が主張するように特色を調整した。



ジャンピン氏指定色

彩度を上げたもの

UV厚盛りで立体感を創出

和紙に刷ることでインキの発色が鈍くなっていたが、スクリーン印刷のUV厚盛りによって艶やかに発色するようになった。

また、紙白の部分にはUV厚盛りを乗せないことで和紙の風合いも同時に活かすことができた。



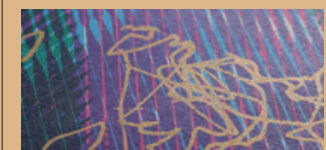
UV厚盛りあり



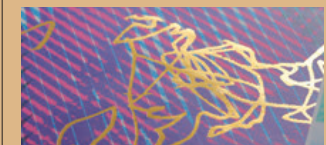
UV厚盛りなし

箔加工の手法を検証

スクリーン印刷で金を刷ることで、発色の良さは表現出来たが、箔押し金の金属の光沢感に近づけることはできなかった。



スクリーン印刷による金の表現



箔押しによる金の表現



1

1 f | 2 u | 3 s | 4 i o | 5 n

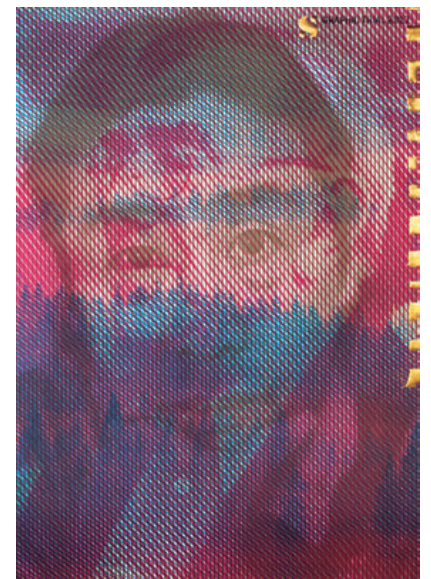
印刷方式[色数]——油性オフセット印刷[3]+スクリーン印刷[2]+箔押し

スクリーン——AM175線、150メッシュ

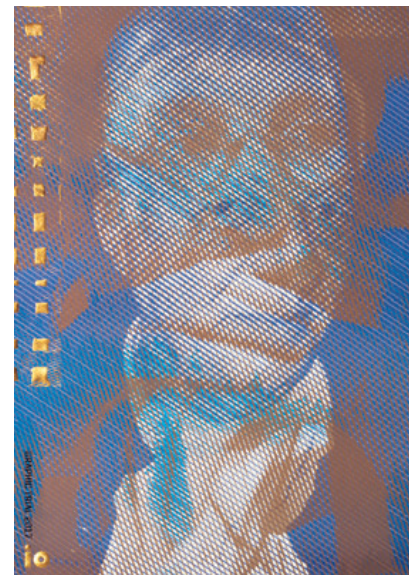
用紙——羊毛紙 110kg



2



3



4



5